

反核医師の会

HANKAKU
ISHI no KAI News

ニュース

Physicians Against Nuclear War (PANW)
核戦争に反対する医師の会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-5-5
新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話 03(3375)5123 FAX 03(3375)1885
e-mail: panw@doc-net.or.jp
http://no-nukes.doc-net.or.jp/

第32回 反核医師のつどい

9月24日、25日に、兵庫で開催(オンライン併用)

兵庫県保険医協会理事長
第32回反核医師のつどい in 兵庫実行委員長

西山 裕康



ロシア・プーチン政権は国際社会の制止を振り切つて、ウクライナ侵攻を行つた。この暴挙はICANのベアトリス・フィン事務局長が「核抑止力は国を守るために使われるのではない、むしろ指摘しているように、核兵器は抑止力などではなく大国の侵略の道具である」とともに「核抑止力論」の欺瞞性を明らかにした。また、同じくベアトリス・フィン氏は「攻撃的で無責任な姿勢をとっているのは、ロシアとベラルーシだけではない。5大国以外の核兵器『保有』を妨げる一方で、核兵器の『貯蔵』は認めるという核兵器不拡散条約(NPT)の欠陥を利用して、アメリカは欧州の5カ国に核兵器約100発を提供している」とウクライナ危機の背景には国際的な緊張を高めたNPT体制と米国の問題を指摘している。

ウクライナ危機で、私たちは「核抑止力」や「核不拡散」では国際社会の平和を守る事ができないことを、身をもって知った。やはり必要なことは今すぐ地球上からすべての核兵器を廃絶することである。

今年は新型コロナ禍で延

期されていたNPT再検討会議と第1回核兵器禁止条約締約国会議が開催される。NPT再検討会議ではウクライナ情勢をめぐる核保有国の応酬が予想され、新たな前進は考えづらい。一方、核兵器禁止条約締約国会議には大きな期待が集まる。

今年のつどいでは、1日目の企画で、ICANの金融セクターコーディネーターであるスージー・スナイダー氏をメインスピーカーに招き、核抑止力論やNPT体制の欺瞞性を再度共有したい。さらに、核兵器禁止条約の意義とそれを具体化する市民社会の運動の一つで、近畿で取り組みが進んでいる、核兵器製造企業に投資するな Don't Bank on the Bomb、について取り上げる。また、ウクライナ危機を利用して国内で勢力を増す「核武装論」「核共有論」「憲法9条改憲」の危険性にも触れたい。さらに、開催地である神戸市が世界に誇る「非核神戸方式」の意義とそれを守ってきた市民の運動にも焦点を当てる。

また、2日目には東日本大震災から11年目を迎えた東北での人々の暮らしに着

目して、核災害の悲惨さを共有する企画を予定している。

新型コロナウイルス感染症の拡大状況を注視しながら、オプショナルツアーとして、日本で唯一の潜水艦建造工場や日本最大規模の原発製造工場を擁する神戸港巡りや懇親会も予定している。

オンライン併用での開催を予定している、リアル・オンライン問わず多くのおみなさんにご参加いただきたい。詳細は決まり次第、反核医師の会のホームページ等で紹介する予定。

ロシアによるウクライナ侵攻に抗議声明を発表

2月25日、反核医師の会は、ロシアによるウクライナ侵攻に対して、「ロシアによるウクライナ侵攻に抗議する ロシアは、ただちに軍事行動を中止し、ウクライナ領から撤退せよ」の抗議声明を発表し、在日ロシア大使館に送付した。全文はホームページに掲載。

日本ユニセフが取り組んでいる「ウクライナ緊急募金」先

公益財団法人日本ユニセフ協会 ウクライナ緊急募金

〈郵便局による振り込み〉
郵便局(ゆうちょ銀行) 募金口座
振替口座: 00190-5-31000
口座名義: 公益財団法人 日本ユニセフ協会
※通信欄に「ウクライナ」と明記
ユニセフのホームページからの寄付も可能。
詳細は、ユニセフホームページ参照。

第32回反核医師のつどい in 兵庫 9月24日・25日

【24日】

企画① ウクライナ危機から見る「核抑止力論」と「NPT体制」の問題点
—今こそ核兵器禁止条約を全世界に— (仮)

講師: スージー・スナイダー氏(ICAN「核兵器廃絶国際キャンペーン」)
報告: 松井和夫氏(近畿反核医師懇談会「D B O B」キャンペーン事務局長)

企画② 「核共有」「核武装」「憲法9条改憲」で日本を守ることができるのか
—非現実的な「現実主義者」たちの主張— (仮)

講師: 安斎育郎氏(立命館大学名誉教授)

企画③ 非核神戸方式を全世界に

講師: 梶本修史氏(兵庫県原水協事務局長)

【25日】

シンポジウム「東日本大震災～福島第一原発事故とその後」(仮)

コーディネーター 郷地秀夫氏

(東神戸診療所所長/核戦争を防止する兵庫県医師の会代表)

パネリスト 小出裕章氏(元京都大学原子炉実験所)

齋藤紀氏(福島医療生協・わたり病院)

広川恵一氏(兵庫県保険医協会顧問)

他



宮城県の女川原発は避難計画も承認され2022年度以降に2号機の再稼働を目指している。

今年2月重大事故を想定した政府と県の原子力総合防災訓練が二日間行われた。想定では前日に発生した地震と津波で女川2号機が緊急停止、原子炉が冷却不能、避難指示が出されたのはPAZ圏内と牡鹿半島南部、離島の住民3500人である。すべての計画において問題山積ではあるが、離島からの避難訓練を見て驚いた。前日の津波想定にも関わらず出島という離島からの避難は、なんとフェリーで女川港へ。東日本大震災で最大14・8mの津波が押し寄せた女川港に地震発生翌日に船で避難とは。原則はヘリコプターによる空路避難となるが大規模災害が発生している中、その実効性には疑問が残る。最悪、放射線防護施設での長期避難も考えられる。陸路においても渋滞や使用道路の寸断など災害時には避難計画が破綻する要素が山積だ。実際の避難想定は20万人であるが、この訓練への参加は新型コロナウイルス感染症拡大の為、住民の参加は見合自自治体職員などによる400人であった。しかしこの訓練後、原子力防災担当大臣は「避難計画の実効性を十分確かめられた」との認識を示した。啞然失笑、茫然自失である。住民が言った言葉が耳に残る「これは避難計画ではなく被曝計画だ」。ウクライナ侵攻にあたりロシア軍は原発施設の攻撃、占拠という暴挙にでた。原発は有事の際には攻撃対象になる。この教訓からも原発はNOである。(H・S)

黒い雨訴訟を巡る この間の情勢

「原爆黒い雨被爆者訴訟」で広島高裁は昨年7月14日に国の控訴を棄却し、黒い雨に遭ったものは、放射性微粒子による外部被曝、内部被曝による健康被害を受ける可能性があることから、病気を発症していなくても救護被爆者と同様に3号被爆者に該当するとの画期的判決を出した。

「原爆『黒い雨』訴訟を支援する会」は9月、10月に8か所で黒い雨被爆者相談会を開催し、健康管理手当も同時に申請することを勧めて10月11日に189人が広島市に集団申請した。同支援する会は、10月24日の総会で名称を「原爆『黒い雨』被害者を支援する会」に変更し、全ての「黒い雨被爆者」の救済を目指して引き続き活動することと決定した。

厚労省は11月30日によ

うやく広島県・市、長崎県市との協議を開催し、被爆者認定制度を改正して2022年4月から運用する方針を示し、12月23日に「黒い雨」訴訟を踏まえた審査の指針改正の骨子(案)を発表した。その概要は、①「原告と同じような事情にある者」とは黒い雨に遭った当時の状況(場所・時間帯、降雨状況、生活状況など)が原告と同じようなことが確認できるか、②健康管理手当対象の11種類の疾病にかかっている者、ただし白内障は手術後でも認めるといった内容であった。厚労省から示された同骨子(案)に対し、12月24日に広島県・市は「疾病要件には反対だが、早期に制度運用を開始するため骨子案を受け入れる」と回答した。同日、「原爆『黒い雨』被害者を支援する会」は、同骨子案に対し、①黒い雨降雨域に所在していたと認められる者について「黒い雨に遭った者」とするべき、②11種類の疾病は健康管理手当の対象となる疾病であり、被爆者認定とは本来無関係のものである。疾病を要件とせず、「3号被爆

者」と認めるよう改めるべき、③広島県市は骨子案を受け入れず、前項のとおり改めるよう厚労省と協議を継続すべき、との意見書を提出した。12月27日には、長崎県・市が、広島に限定される同骨子案は受け入れられるものではない。新たな裁判を誘発するものであると回答をしている。

12月27日、厚労省は広島県・市、長崎県市からの回答を受け「広島県市及び長崎県市との今後の進め方について」として、「被爆者援護法第1条第3号に係る審査の指針」の作成に向けた取組を進めるとともに、長崎への対応について、引き続き協議すること、2022年度予算に約1万人を対象に78億円を計上することなどを示した。

2022年2月18日現在、広島市への事前申請は1533件、広島県へは422件となっている。2月21日に厚労省は、原告と同じように黒い雨に遭ったかどうか居住地、通学先、勤務先のある書類を求めて個別に審査する。11種類の障害をとまなう一定の疾患(白内障は術後も可)にかかっていることを、診断書をもとに審査する、との被爆者健康手帳申請案内を発表した。

広島市の保健医療担当局長は、2022年2月14日の広島市議会本会議で「原告以外の方は首相談話に従って、放射能による健康被害の特殊性を含めた『黒い雨』により被爆したすべての人々を被爆者と認め、救済すべきである。」

私たちは、「黒い雨被爆者訴訟」勝訴の成果を長崎の被爆体験者、ビキニ水爆実験被害漁船員、福島原発事故被害者の救済に広げていかなくてはならない。

(常任世話人 青木克明)

核兵器製造企業への投融資に関する 調査結果を記者発表

近畿反核医師懇談会

近畿各府県の反核医師の会などをつくる近畿反核医師懇談会は昨年12月19日、大阪市内とオンラインで、金融機関の核兵器製造企業への投融資に関する調査結果を記者発表し、しんぶん赤旗で報道された。



マスコミ発表の模様(左から飯田、武村、松井各氏)

年前に京都で開催した『反核医師のつどい』でこのテーマを取り上げ、運動の継続を確認し、近畿が中心となつて進めている。この運動は患者さんも利用している金融機関を通じて参加しやすいので、大きく広がっていきたい」と述べた。

愛知の会も 質問状送付
なお、反核医師の会・愛知では、当該質問状について愛知県に本社がある未回答の銀行(中京銀行・愛知銀行・名古屋銀行)に昨年11月15日に質問状を送付した。その結果、中京銀行から、DBOB

※調査結果の詳細は昨年開催した第31回反核医師のつどいin千葉で報告され、反核医師の会ニュース78号に掲載している。

核兵器製造企業にお金を貸すな Don't Bank on the Bomb 動画・リーフレットの活用を

近畿反核医師懇談会、反核医師会では、Don't Bank on the Bomb キャンペーンを推進するために、YouTube チャンネルで動画配信をしています。ぜひ、チェックして、チャンネル登録をお願いします。

今回の調査結果と併せて、「反核医師の会」ホームページのトップページに Don't Bank on the Bomb 特設サイトのバナーをリンクしています。



YouTube チャンネル
「Human Dignity
～核廃絶への道」



YouTube チャンネル
「反核医師の声」



◀QRコードからも
ご覧頂けます。



近畿反核医師懇談会、反核医師の会は、Don't Bank on the Bomb のリーフレットを作成しています。ぜひご活用ください。

反核医師の会・学生部会 新旧代表のご挨拶



新代表

藤岡 篤司

(東北医科薬科大学4年)

初めまして。この度、反核医師の会学生部会次期代表者を勤めさせていただきますことになりました。皆さまにご挨拶を申し上げます。

今年の4月に交代した反核医師の会学生部会の新旧代表より、学生部会の活動の感想、今後の抱負などを寄せて頂きました。

私は、福島の問題について改めて考え直したいという思いから、今年の9月に反核医師の会学生部会に入会し、活動に参加させていただいています。現在、この会では原発問題や原爆、核兵器などの核問題に関する勉強会をオンライン上で行っています。この勉強会は、主に講師を招いて講演会を開いたり、部会のメンバーとの意見交換をしており、核に関する知識を深めるのは勿論のこと、これから核問題にどう向き合っていくべきなのかを考えています。

これから次期代表として部会でやっていきたいことがいくつかあります。まずは、フィールドワークをすることです。今は、コロナ禍により皆で集まって学習することが難しくなっていますが、フィールドワークにより得られるものはとても多いので、いつかできればと思います。次に、核問題を考えるにあたって必要となる知識(世界情勢など)を身につけることです。核問題とそれに関連する背景を知らなければ、その問題に対して浅はかな意見しか生まれなと思うから申し上げます。



前代表

長谷川 碧紀

(坂総合病院初期研修医
東北医科薬科大学卒)

広島に原爆被害者の親族がおり、幼い頃から原爆や核について考えている中で多くの学びや出会った私でしたが、反核医師の会と出会い、フィールドワークに参加するだけ

ったと思っています。2年生の終わりに「反核医師の会学生部会の代表やらない？」と今でも尊敬する先輩方から声をかけて頂き、それから4年間、代表として過ごせた事に、更に感謝の思いで一杯です。コロナ禍以前の活動はフィールドワークが主体であったため、コロナ禍に突入し、1年程活動を行うことが出来なかった事が今考えると残念でしたが、学生部会の体制を整えつつ、オンラインで学習会を開催し活動を再開する事が出来ました。21年度は3回学習会を行



反核医師の会・学生部会 活動報告

小内 ゆい

(勤医協中央病院
初期研修医・島根大学卒)

12月26日開催 事務局内学習会

「被災地のメンタルヘルスの今」

私たち学生部会では、2021年8月に開催した事務局内学習会では、相馬市・メンタルクリニックなごみの所長である蟻塚亮二先生をお招きして「被災地のメンタルヘルスの今」をテーマにご講演いただきました。

原発ができるきっかけから始まり、避難者のPTSDについて学びました。



SDハイリスク群は戦争のトラウマなみに高いことや、被災者の苦痛を強める要因の一つとして補償賠償のめどが立たないことが挙げられており、人災が被災者に与える影響について学びました。

また、被災者のメンタルヘルスケアのお話で印象に残ったのは「悲しみとは、受けとめてくれる人がいて可能になる体験であり、生きる」ことに対する肯定的な意思と結びついた「能力」である」という言葉です。被災者だけでなく、医療者や患者さんに対して、更には個人としての私たちが一人ひとりに投げかけられた言葉に感じたからです。

質疑応答では、「精神的な問題を抱えている自分が精神科医になれるか」といった質問がありました。蟻塚先生は「僕も様々な問題を抱えているけれど、医療職というのは幸せな職業で、患者さんに治してもらえるんだ。福島に来て、やっとな患者さんから先生良くなってきたね」と言ってもらえるようになった」と答えられました。

被災した人びとの心に寄り添いたいと思う一方で、想いが強いからこそ「自分にできるだろうか」という不安を抱くことが、誰にでもあるのではないかと思います。そんな気持ちを包んでいたように感じました。被災者のストレスについて学ぶだけでなく、これからどんな医師になりたいか、意義な時間になったと思いを考える上で大変有意義な時間になりました。

「いまなぜ核兵器について学ぶのか」

医学生に知って
もらいたいこと

2022年3月5日に開催したweb学習会についてご報告します。「いまなぜ核兵器について学ぶのか」医学生に知ってほしいこと」をテーマに、安齋育郎先生にご講演いただきました。

このテーマは新しく入会してくる学生の疑問から生まれ、学生部会では、約10日前にロシアによるウクライナ侵攻が始まり、国際情勢が緊迫する中で安齋先生のお話を拝聴でき、貴重な機会となりました。

書籍紹介

『翻訳できない世界のことは』

(エラ・フランシス・サンダース著／前田まゆみ訳 創元社)
B5判変形 112頁 1,760円(税込)



「翻訳できない世界のことは(エラ・フランシス・サンダース著)」という本がある。一言では訳せない世界の言葉をたくさん紹介している。本を開くと目に飛び込んでくるのは、ページいっぱいのユニークなイラスト。「ことば」の説明文は面白くて、イラストと相互に補いながら、その「ことば」の世界観を伝えてくれる。この本を読んでいると、過去に言葉にできなかったことや、忘れていた大切なことを思い出させてくれる。

TREPPVERTER
(トレップヴェルテル)
インディッシュ語

― 後になって思い浮かんだ得意即妙な言葉の返し方。
悔しいことに、その場を去ってから一番いい返し方が浮かびます。―

たいへん身に覚えがある。オヤツと思った時には良い返しはできず、後で色々考えて、さらに悔しくなるのである。

「ロシアからの攻撃かな?」職場で一瞬停電になった時に上司が言った。何が言いたいのかが不明で、いい気もした

かったので流していると「冗談通じないか(笑)」と。この冗談、全く笑えない。ロシアの攻撃下には苦しんでいる人々がいる。安全な所から高みの見物気分で発されたその冗談が、まるで、攻撃下にいる人々を軽く扱っているかのように感じられ、私は腹が立った。どんな言葉を返せばよかったか未だに思いつかないが「面白くないです」くらい言いたかった。(ちなみに「逆に笑うしかないくらい実は笑えないひどいジョーク」のことをインドネシア語で「JAYUSジャユス」と言らしい) HIRATH(ヒラエス) ウェールズ語

― 帰ることができない場所への郷愁と哀切の気持ち。
過去に失った場所や永遠に存在しない場所に対しても ―

以前、沖縄で出会った人が、「あなたが住む長野県には古い木がたくさんありますよね。羨ましいです。地上戦があつた沖縄南部には樹齢100年以上の木はないんです。古い木を見ると『この地で戦争は起きなかったんだ』と思

います」と言っていた。彼女は戦後生まれで、樹齢100年以上の木々が茂る、基地のない沖縄は見たことがないはずだが、それでも過ぎ去った沖縄への郷愁というものがあ

るのかもしれない。それがHIRATHなんじゃないか。沖縄の人たちと話していると、戦争や軍事基地によって、帰りたい故郷を潰されることへの寂しさや怒りを感じることがある。

この本では、文化や習慣の中で自然に生まれた「ことば」たちを紹介している。逆に、自ら「ことば」を作ること、みんなの中に共通認識が生まれ、物事が前進することもあると思う。核兵器禁止条約は人々が自ら作った「ことば」だ。そこには、被爆者のことを知った世界の人々の「こんな非人道的な核兵器は絶対に無くさないといけない!」という決意が込められている。

この条約のもと、少しずつだが着実に世界は変化している。核兵器禁止条約をなくしてはならない共通言語にしておくことで、核廃絶の道を築いていきたい
(常任世話人 光武 鮎)

核兵器禁止条約の署名・批准を

日本政府に求める署名にご協力を!

第1回核兵器禁止条約締約国会議は、6月21日〜23日の3日間での開催が決定した。また、核不拡散条約(NPT)再検討会議は、8月1日〜26日に開催されることとなった。

日本政府に条約への署名・批准を求める署名活動の取り組みが進められている。(署名用紙は、反核医師の会のホームページに)ぜひ、ご協力を!

会費納入のおねがい

反核医師の会は、会員みなさまの会費と、主旨に賛同いただいている募金によって運営しています。

2022年は「つどい in 兵庫」を9月24日〜25日に久しぶりに対面(オンライン併用)で開催するなど様々な取り組みが予定されています。

2022年度(2022年4月1日〜2023年3月31日)の会費納入のほど、よろしくお願いいたします。

個人会員(医師・歯科医師、医学者) 10,000円

研修医(卒後2年まで) 3,000円

医・歯学生会員 1,000円

賛助会員 1,000円

振込先

◇りそな銀行 新都心営業部 普通 1557502

「反核医師・医学者の集い」

◇ゆうちょ銀行 (他銀行からの振り込みの場合) ○一九支店

当座 0056764 「反核医師・医学者の集い」

◇郵便振替 00170-7-56764 「反核医師・医学者の集い」

反核医師の会
第18回全国大会のお知らせ
オンライン併用

◇日時: 2022年6月12日(日)
10:30〜15:30(総会は10:30〜12:00)

◇場所: 東京・渋谷区・新宿農協会館8階会議室
+Zoomによるオンライン併用

・記念講演(13:00〜15:30)

テーマ: 「核兵器廃絶と戦争放棄: 世界平和のために日本の歩むべき道」(仮題)

・講師: 高原孝生 明治学院大学教授

冒頭1時間、I C A Nドキュメンタリー映画『核兵器の終わりの始まり』を上映予定

※web参加の申し込みは、右記のQRコードより

